

## カーボン・オフセットさくらんぼ：南アルプス市産、販売 食べてCO2削減に貢献 小水力発電で排出権創 出 / 山梨

毎日新聞 4月25日(水)13時50分配信

二酸化炭素(CO2)排出削減への貢献を目指す南アルプス市産「カーボン・オフセットさくらんぼ」が今月から、東京都内などで販売されている。同市の小水力発電で創出した「CO2排出権」を値段に上乗せしたことで、消費者は食べることによってCO2削減に貢献できる仕組みだ。

カーボン・オフセットは、日常生活や経済活動で排出が避けられないCO2を、自然エネルギー事業へ投資することなどで相殺(オフセット)する考え方。

同市は昨年、高知県が間伐材燃料化事業で得たCO2排出権を購入してCO2を相殺する「カーボン・オフセットトマト」を販売した。今回は、同市で自前の小水力発電を導入してCO2排出権を創出した。同市地球温暖化対策室によると、消費者は「カーボン・オフセットさくらんぼ」1商品を購入すると、1人1日のCO2平均排出量約5キログラムを相殺できる計算だという。

さらに、サクランボのハウス栽培の燃料に樹木の枝を加工した木質ペレット(固形燃料)を使用。樹木は元々CO2を吸収して成長するため、同対策室は「燃やす際の排出分と、ほぼ差し引きゼロで考えることができる」と話す。県内のサクランボなどの樹木を用いるので、購入コストも重油の3分の2程度だという。

今冬には、市内で栽培が盛んなシンビジウムの花をカーボン・オフセット商品として出荷する予定で、同対策室は「温暖化対策と農業活性化を両立させたい」と話している。

サクランボは、東京都中央区の日本橋高島屋(1パック80グラム800円など)など東京、大阪、京都3都府の百貨店で取り扱う。

来月上旬まで販売予定。県内では販売していない。問い合わせは対策室(電話055・282・7409)。**【屋代尚則】**

4月25日朝刊

# 「食べてCO2削減に貢献」、カーボン・オフセットさくらんぼ

産経新聞 4月22日(日)11時28分配信

「カーボン・オフセットさくらんぼ」の収穫が始まったハウス。燃料代は従来より3分の2程度で済んだという＝山梨県南アルプス市(写真:産経新聞)

二酸化炭素(CO2)削減に貢献する山梨県南アルプス市の「カーボン・オフセットさくらんぼ」の収穫が同市飯野のハウス農家で始まった。農家の協力で、ハウス内を暖める燃料として重油など化石燃料の代わりに木質バイオマス(木質ペレット＝固形燃料)を使い環境に配慮したほか、同市の小水力発電事業で創出した電力の消費分に相当する「CO2排出権」をサクランボに付加し、消費者が口にすることでCO2削減に貢献できるようにした。「環境付加価値の高い農産物」として都内の百貨店などの店頭にも並ぶ。

カーボン・オフセットは「日常生活、経済活動で削減努力を重ねても排出せざるを得ない温室効果ガスについて、見積もった排出量に相当する削減活動に投資し、その排出分を埋め合わせる」という仕組み。

南アルプス市は昨年、高知県の温暖化対策事業に投資してCO2排出量を“相殺”する「カーボン・オフセットトマト」を東京、横浜のデパートなどでテスト販売し、「環境に配慮したトマト」として評判を呼んだ。

今回はこの仕組みの対象を、市の主力農産物のサクランボに広げた格好だ。

市地球温暖化対策室によると、今回は事業への投資でなく、市が発電事業で創出したCO2排出権をサクランボに付け、環境省の「オフセット・クレジット(J-V E R)制度」における排出権11.5トンが認められた。

これは木箱やパック入りのサクランボ2300ケース分に相当し、1ケースを食べると消費者1人の1日当たりCO2排出量に相当する約5キロの削減に貢献できる計算になる。商品には環境省基準の認証ラベルが貼られる。

収穫が始まった飯野宣久(よしひさ)さん(63)のハウスでは、初日に早生種の「高砂」約3キロを収穫した。今冬は重油が高値で推移し、飯野さんは「ペレット使用で燃料代は3分の2程度で済んだ」と話していた。

市地球温暖化対策室の樋泉孝司さんは「剪定(せんてい)枝の処分に困っている農家は多く、木質資源の有効活用はエネルギーの地産地消にもつながる。最終的には市内のエネルギーを市内で循環して活用できる仕組みを作り、さらに普及させたい」と話す。

同市は「カーボン・オフセット農産物」第3弾として、今年12月に花のシンビジウムの販売を計画している。



「カーボン・オフセットさくらんぼ」の収穫が始まったハウス。燃料代は従来より3分の2程度で済んだという＝山梨県南アルプス市(写真:産経新聞)

# 「食べてCO2削減に貢献」第2弾、カーボン・オフセットさくらんぼ

2012.4.22 07:00 (1/2ページ)

食べるとCO2削減に貢献できる「カーボン・オフセットさくらんぼ」。山梨のハウス農家で収穫が始まった＝山梨県南アルプス市

二酸化炭素(CO2)削減に貢献する山梨県南アルプス市の「カーボン・オフセットさくらんぼ」の収穫が同市飯野のハウス農家で始まった。農家の協力で、ハウス内を暖める燃料として重油など化石燃料の代わりに木質バイオマス(木質ペレット＝固形燃料)を使い環境に配慮したほか、同市の小水力発電事業で創出した電力の消費分に相当する「CO2排出権」をサクランボに付加し、消費者が口にすることでCO2削減に貢献できるようにした。「環境付加価値の高い農産物」として都内の百貨店などの店頭に並ぶ。

カーボン・オフセットは「日常生活、経済活動で削減努力を重ねても排出せざるを得ない温室効果ガスについて、見積もった排出量に相当する削減活動に投資し、その排出分を埋め合わせる」という仕組み。

南アルプス市は昨年、高知県の温暖化対策事業に投資してCO2排出量を“相殺”する「カーボン・オフセットトマト」を東京、横浜のデパートなどでテスト販売し、「環境に配慮したトマト」として評判を呼んだ。

2012.4.22 07:00 (2/2ページ)

食べるとCO2削減に貢献できる「カーボン・オフセットさくらんぼ」。山梨のハウス農家で収穫が始まった＝山梨県南アルプス市

今回はこの仕組みの対象を、市の主力農産物のサクランボに広げた格好だ。

市地球温暖化対策室によると、今回は事業への投資でなく、市が発電事業で創出したCO2排出権をサクランボに付け、環境省の「オフセット・クレジット(J-V E R)制度」における排出権11.5トンが認められた。

これは木箱やパック入りのサクランボ2300ケース分に相当し、1ケースを食べると消費者1人の1日当たりCO2排出量に相当する約5キロの削減に貢献できる計算になる。商品には環境省基準の認証ラベルが貼られる。

収穫が始まった飯野宣久(よしひさ)さん(63)のハウスでは、初日に早生種の「高砂」約3キロを収穫した。今冬は重油が高値で推移し、飯野さんは「ペレット使用で燃料代は3分の2程度で済んだ」と話していた。

市地球温暖化対策室の樋泉孝司さんは「剪定(せんてい)枝の処分に困っている農家は多く、木質資源の有効活用はエネルギーの地産地消にもつながる。最終的には市内のエネルギーを市内で循環して活用できる仕組みを作り、さらに普及させたい」と話す。

同市は「カーボン・オフセット農産物」第3弾として、今年12月に花のシンビジウムの販売を計画している。



食べるとCO2削減に貢献できる「カーボン・オフセットさくらんぼ」。山梨のハウス農家で収穫が始まった＝山梨県南アルプス市

2012.4.17 02:07 (1/2ページ)

二酸化炭素(CO2)削減に貢献する南アルプス市の「カーボン・オフセットさくらんぼ」の集荷作業が16日、同市飯野のハウス農家で始まった。農家の協力で、栽培時に重油など化石燃料の代わりに木質ペレット(固形燃料)を使い環境に配慮したほか、同市の小水力発電事業で創出した電力の消費分に相当する「CO2排出権」をサクランボに付加し、消費者が口にすることでCO2削減に貢献できるようにした。18日以降、「環境に優しい農産物」として都内の百貨店などの店頭に並ぶ。

カーボン・オフセットは「社会、経済活動で削減努力を重ねても排出せざるを得ない温室効果ガスについて、見積もった排出量に相当する削減活動に投資し、その排出分を埋め合わせる」という仕組み。南アルプス市は昨年、他県の温暖化対策事業に投資して排出量を“相殺”する「カーボン・オフセットトマト」をテスト販売。この仕組みの対象を市の主力農産物のサクランボに広げた形だ。

市地球温暖化対策室によると、今回は他県の事業への投資でなく、市が発電事業で創出したCO2排出権をサクランボに付けた。環境省の「オフセット・クレジット(J-V E R)制度」における排出権11.5トンが認められた。

2012.4.17 02:07 (2/2ページ)

これは木箱やパック入りのサクランボ2300ケース分に相当し、1ケースを食べると消費者1人の1日当たりCO2排出量に相当する約5キロの削減に貢献する計算となる。商品に同省基準の認証ラベルが貼られるという。

16日に集荷が始まった同所の飯野宣久(よしひさ)さん(63)のハウスでは早生種の「高砂」約3キロを収穫。今冬は重油が高値で推移したため、飯野さんは「ペレット使用で燃料代は3分の2程度で済んだ」と話していた。市地球温暖化対策室は「木質資源の有効活用はエネルギーの地産地消にもつながる。この仕組みをさらに普及させたい」としている。

